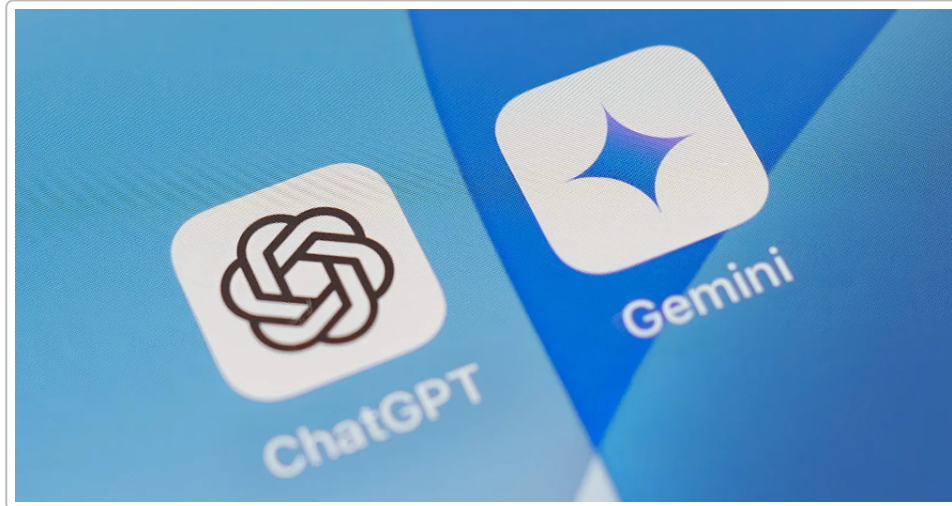


ChatGPT失速か、Gemini急伸 – グローバルAIトラフィックシェアの詳細分析



ChatGPT (OpenAI) と Gemini (Google) はジェネレーティブAIチャットツールの2大プラットフォームとなっており、2026年1月時点で両者合わせて世界のAI関連サイトトラフィックの約86%を占めています^①。この時点でChatGPTは約64.5%のシェアで依然トップですが、GoogleのGeminiは急速に成長して21.5%に達しました^{② ③}。1年前（2025年初頭）にはChatGPTが86%前後を占め、Geminiはわずか5%程度だったことを考えると、この変化は劇的です^④。2026年の幕開けにおいて、ChatGPT対Geminiの競争はAIツール市場の多様化を象徴するものとなっています。

グローバルAIトラフィックシェアの現状

ウェブ解析企業Similarwebの最新レポートによれば、**ChatGPTのウェブトラフィックシェアは2026年1月時点で約64～65%まで低下し、GoogleのGeminiは21%超に急伸しました^⑤**。これはちょうど1年前（2025年1月）にはChatGPTが約86%を支配していたのに対し、Geminiは5%程度の存在感だったことを踏まえると大きなシフトです^⑤。ChatGPTとGeminiの2強で全体の約86%を占める一方、残りのシェア（約14%）はその他のツールに分散しています^①。主要な追随勢力としては、中国発の**DeepSeek**（約3.7%）、イーロン・マスク主導のX社の**Grok**（約3.4%）が挙げられ、さらにPerplexity.aiやAnthropicのClaudeがそれぞれ約2%前後で続いています^⑤。MicrosoftのGitHub Copilotも約1%強と僅かながら含まれます^⑥。これらの数字は**各サービスのドメイン（ウェブサイト）への直接訪問数**に基づくため、API経由やアプリ・統合機能での利用は含まれていない点に注意が必要です^⑦。つまり、企業や開発者が裏側でAIモデルを活用するケースや、スマートフォンアプリ経由の利用はこの統計に表れず、あくまでユーザーが各AIサービスのサイトにアクセスしたトラフィックの比較となっています^⑧。

Gemini急伸の要因とGoogleの戦略

Geminiの勢いがここまで増した背景には、**Googleの積極的な戦略と技術力向上**があります。まず、Googleは2025年を通じて**Geminiの市場シェア拡大を重要目標に掲げ、有料機能の無料開放など利用促進策を講じました^⑨**。例えば2025年3月には「**Gemini 2.5 Pro**」の実験的提供を開始後わずか4日で有料制限を撤廃し、全ユーザーが高度な機能を試せるようにしたと報じられています^⑩。このような価格戦略により、より多く

のユーザーがGeminiを利用し始めたと考えられます。またGoogleは、自社の広大なエコシステムを活かしてGeminiを普及させました。**Android端末やGoogle Workspace（ドキュメント作成やスプレッドシート等）への統合を進め**、ユーザーが日常的にGeminiのAI機能に触れられる環境を整えています¹¹。実際、Similarwebの分析によれば**Androidや各種プロダクトへの組み込みがGeminiの直接利用増加を後押ししている可能性があります**¹¹。さらに技術面でも、Geminiはマルチモーダル（テキストだけでなく画像生成や解析にも対応）な次世代モデルとして登場し、その**画像生成能力の高さ（リアルな画像生成など）**がユーザーに評価されています¹²。独立系の比較テストでは「**画像のリアルさではGeminiが勝る**」との結果も出ており¹²、これが**ビジュアルコンテンツを必要とするユーザー層を引き付けた要因**と言えるでしょう。また**大規模言語モデルGeminiの最新版（Gemini 3など）に対する期待や、Googleブランドへの信頼感も普及を後押しした**と考えられます。総じて、**積極的な無料化戦略、広範なエコシステム統合、そして技術的アドバンテージが組み合わせ**さり、2025年を通じてGeminiは**5%台から20%超へと着実かつ急速なシェア拡大**を実現しました¹³²。

ChatGPTシェア低下の背景とOpenAIの対応

一方、かつて市場を独占していたChatGPTの相対的な地位低下には**複数の要因**が絡んでいます。まず純粋な数値の上でも、ChatGPTのウェブトラフィックは**過去3か月（2025年秋～冬）で約22%減少**したのに対し、Geminiは同期間に約49%増加しています¹⁴。このように**競合へのユーザー流出**が進んでいることが統計からもうかがえます。また2023年末から2024年にかけて爆発的に広がったChatGPTも、**2025年には成長が鈍化し始めた**と指摘されています。特に2025年末のホリデーシーズンには全AIツールの利用が一時的に落ち込み、ChatGPTの利用も例外ではありませんでした¹⁵。しかし年明けと共に需要は持ち直しつつあるものの、以前ほどの独占的支持は得られていないようです¹⁶。

さらに**競合製品の台頭で相対的な性能優位が薄れた**ことも大きいでしょう。例えば**コード生成や複雑なプログラミングタスクではAnthropicのClaude（特にClaude Codeモデル）の方が優れている**との評価があり¹⁷、画像生成では前述の通りGeminiが高品質な結果を出せるとされています¹⁷。用途に応じて「**ChatGPTより〇〇の方が得意**」という領域が増え始めたことで、ユーザーが目的に応じ他のAIチャットボットに分散する傾向が出てきました。加えて、OpenAI自身の提供形態も影響した可能性があります。ChatGPTは基本モデルの利用は無料ですが、高性能なGPT-4モデルの使用や追加機能は有料の「ChatGPT Plus」プランに限定されています。対するGeminiは上述の通り**高度機能を含め無料開放する動き**を取ったため、**高機能モデルを無料で使いたいユーザーがGeminiに流れた**可能性があります。この差別化により**一般ユーザーのトラフィックでGeminiが有利になった側面は否めません**。

OpenAI内部でもこうした兆候を受け、**新たな戦略検討**が行われています。報道によれば、OpenAIは**ChatGPTへの広告導入による収益化**を模索しましたが、ユーザー体験を損ない離反を招くリスクから慎重になっているといいます¹⁸。特に「**このタイミングで広告を入れればGeminiにユーザーが流れてしまう**」との懸念が社内にあるとされ、現状では安易な広告モデル導入は見送られている模様です¹⁸。代わりにOpenAIはモデル性能の強化や、新機能（例：**医療分野に特化したChatGPT Healthの投入**¹⁹ など）で巻き返しを図っています。加えて2026年には次世代モデルの開発（GPT-5系統など）やパートナー企業との協業強化も噂されており、依然トップ企業として**シェア再拡大に向けた対策**が講じられている最中です。

新興プレイヤー: DeepSeekとGrokの存在感

ChatGPTとGeminiの二強以外にも、**第三勢力**として注目すべきプレイヤーが台頭しつつあります。その筆頭が中国発のスタートアップ**DeepSeek（ディーブシーク）**です。DeepSeekは2023年創業の新興企業ながら、2025年1月に革新的なAIチャットアプリを公開し業界を驚かせました²⁰。米国の専門家から「OpenAIのChatGPTに匹敵する技術力をわずか数百万ドルの開発費で実現した」と評価され²⁰²¹、リリース直後にはNVIDIAやASMLといった**西側のAI関連株が軒並み急落するほどのインパクト**を与えたといいます²²²³。DeepSeekの最新モデルは多言語対応や高効率動作が特徴とされ、中国内外でユーザーを増やしている模様です。その結果、**2025年中頃には同社のサービスが世界全体の約4～5%のシェアを獲得**しました⁶。

(ChatGPT全盛期に割って入る形となり話題に)。もっとも直近のデータでは約**3.7%前後にシェアが落ち着いており**⁵、GeminiやChatGPTほどの加速度的成長ではありません。しかし今後、中国政府の後押しや英語圏市場への展開次第では再び存在感を増す可能性があります。業界関係者にとっては、**DeepSeekのような新興勢力が大手に与えるインパクト**にも注意を払う必要があるでしょう。

もう一つの注目株がX(旧Twitter)社の開発したAIチャットボット「Grok」です。これはイーロン・マスク氏が立ち上げた新AI企業xAIが2025年にリリースしたモデルで、当初はX(Twitter)の有料会員向けに提供が開始されました。Grokは**ジョークを交えた「皮肉屋」的な回答スタイル**が特徴で、公開当初から話題を集めました²⁴。利用母体がXプラットフォームという限定的な環境であるにもかかわらず、**2025年末～2026年初頭にはグローバルで3%強のシェアを獲得し、DeepSeekに肉薄する勢い**です²⁴。この背景には、マスク氏の巨大な発信力による宣伝効果や、SNS連携ならではのユニークな機能への期待感があると考えられます。Grokはまだ黎明期の製品ですが、「**クローズド環境から徐々に一般開放されつつある**」との報道もあり、**今後シェア拡大の余地**があります。業界としては、Grokのように**大手プラットフォームから生まれる垂直統合型AI**がどこまでユーザーを囲い込めるか注視する必要があります。

なお、上記以外にもPerplexity.ai(検索エンジン型のAIアシスタント)やAnthropic社のClaude、さらにはMicrosoftのBing Chat/Copilot等、多数のAIチャット／アシスタントがひしめいています。現状それらの個別シェアは数%以下と小さいものの、特定ニーズに特化したサービスも多く、今後の差別化要因次第では一角に食い込む可能性があります。特に**文章作成支援系ツール(JasperやWritesonicなど)のトラフィックが近月は軒並み二桁%減少**しており²⁵、ユーザーがより汎用的なChatGPTやGemini、あるいは統合型のAI機能へ移行している傾向が示唆されています。ニッチツールのユーザーが大手汎用AIに流入すれば、主要プレイヤーの立場はさらに強固になるでしょう。

業界への示唆と今後の展望

ChatGPTの相対的な失速とGemini台頭が示すものは、**生成AI分野の競争激化と市場の再編**です。先行者利益で独走していたOpenAIに対し、テックジャイアントのGoogleが巻き返しを図り一定の成果を上げたことで、**AIチャット市場は寡占から競合状態へシフト**しました。業界関係者にとって、この動向はいくつかの示唆を与えます。

- ・**エコシステム戦略の重要性**: 単体のAIチャットボット提供だけでなく、自社製品群への統合や他サービスとの連携がユーザー囲い込みの鍵となっています。GoogleがAndroidや検索にGeminiを組み込んだように¹¹、各社は自社強みを活かしたAIの提供方法を模索する必要があります。今後はMicrosoftがWindowsやOffice製品にAI機能を深く埋め込んだり、AppleがiOS/Siriに独自の生成AIを統合するといった動きも予想されます²⁶。
- ・**ビジネスモデルの転換点**: OpenAIが直面するように、ユーザー基盤拡大と収益化のバランスは微妙な局面です。**有料化とユーザー離れのトレードオフ**に各社は悩むでしょう。Googleは当面無料路線でシェア拡大を優先しましたが、収益化は別途広告やクラウドサービス利用料などで回収を図るはずで、OpenAIはサブスクリプション収入を得つつも、**将来的には広告モデルの導入や企業向けプレミアムサービス強化**も検討課題となるでしょう。その際、ユーザーエクスペリエンスを損ねれば競合に流出するリスクが高く、慎重なかじ取りが求められます¹⁸。
- ・**技術革新と用途特化**: 今回のシェア変動は、必ずしも「一人勝ちの時代が終わった」ことを意味しますが、裏を返せば**用途や強みに応じた棲み分けが進む可能性**を示唆します。実際、コード生成特化のClaudeや、会話の文脈記憶に長けたNovelAI/Character.AI的なサービスなど、それぞれの得意分野でユーザーを獲得する例が出ています。今後も**モデルの差別化・専門特化**が戦略として重要になり、ChatGPTやGeminiもそれぞれ弱点補強と強みの伸長を図るでしょう。たとえばOpenAIはコード専門モデルや業界特化版AIの開発、Googleは画像やマルチモーダル能力のさらなる向上などが考えられます。

- ・**市場全体の拡大と成熟:** 生成AIチャットの総ユーザー数自体が今後どう推移するかも注目です。2023～2024年にかけての爆発的ブームの後、**市場は成熟期に入りつつあり**、一人当たり利用頻度の安定や成長率の鈍化が予想されます¹⁶。Similarwebによると伝統的検索エンジンの利用は前年比数%程度の減少に留まっており、検索自体が急激にAIに置き換わっているわけではないとの分析もあります²⁷。つまり、**AIチャットが新たなユーザー体験として定着しつつも、既存サービスとの共存フェーズに入っている**状況です。こうした中で各社は、自社AIを如何に日常ワークフローに組み込ませるか、他サービスからのシフトを促すか、といった点でしのぎを削ることになるでしょう。

最後に、**2026年以降の展望**としては、さらなる競合の参入と技術ブレークスルーが予期されます。Appleなど未参入の巨大企業が本格的に独自AIアシスタントを投入すれば、市場構図はまた変化する可能性があります²⁶。また、OpenAIやGoogleが次世代のより高度な汎用AI（GPT-5やGemini 4等）を投入すれば、一時的に性能差で突き放す局面もあり得ます。加えて、各国政府の規制や支援策も各社の戦略に影響を与えるでしょう。**業界関係者にとって重要なのは、このダイナミックな市場変化をいち早く察知し、自社のビジネス戦略や技術開発ロードマップに反映させることです。**今回明らかになったChatGPTとGeminiのシェア逆転現象は、そのための貴重なケーススタディと言えます。今後も定期的な市場データをウォッチし、AIエコシステム全体の潮流を読み解くことが競争優位の鍵となるでしょう²⁸²⁹。

Sources: Generative AI web traffic share data from Similarweb Global AI Tracker (Jan 2026)⁵³; analysis and news from BleepingComputer³⁰¹⁷, Android Central²¹⁰, SearchEngineJournal¹¹¹⁴, CBS News²⁰²², etc.

¹ ² ³ ⁹ ¹⁰ ¹³ ¹⁹ ²⁶ Battle of Gen AI: Google's Gemini gains ground on its ChatGPT competitor | Android Central

<https://www.androidcentral.com/apps-software/ai/battle-of-gen-ai-googles-gemini-gains-ground-on-its-chatgpt-competitor>

⁴ ⁵ ⁷ ⁸ ¹¹ ¹⁴ ¹⁵ ²⁵ ²⁷ ²⁸ ²⁹ Google Gemini Gains Share As ChatGPT Declines In Similarweb Data

<https://www.searchenginejournal.com/google-gemini-gains-share-as-chatgpt-declines-in-similarweb-data/564690/>

⁶ ¹² ¹⁶ ¹⁷ ¹⁸ ²⁴ ³⁰ ChatGPT is losing market share as Google Gemini gains ground

<https://www.bleepingcomputer.com/news/artificial-intelligence/chatgpt-is-losing-market-share-as-google-gemini-gains-ground/>

²⁰ ²¹ ²² ²³ What is DeepSeek, and why is it causing Nvidia and other stocks to slump? - CBS News

<https://www.cbsnews.com/news/what-is-deepseek-ai-china-stock-nvidia-nvda-asml/>